

ゴボウ



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
土作り	早めに 播種迄に20日以上、なるべく長期間おく 特に岐根に悩んでいる畑では、早めに、シッカリ土作りをする事	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥1トン以上(なるべく多く) ※堆肥・有機物が無い場合は、米ヌカ150kg以上。 ●ラクトバチルス600g →深くまで通気良く、膨軟で、醗酵状態の豊かな土壌にする。 ●硫安80kg ※もし通常の配合肥料を使う場合は、チッソ成分で16kg前後。(硫酸カリ20kg … 砂地で堆肥が乏しい場合) ●畑の大將<青> 60kg (土壌が酸性なら80~100kg) ※カルシウム栄養供給とともに、土壌酸性の中和も行う。 ※ゴボウは特に土壌酸性に弱く、適正pH6.5~7.0。 ※なるべく土壌深層まで酸性を中和するよう、土作り時に使用する。 ●マンゾク粒状 50kg →持続的に根部を強く伸ばし、生育を早く・強く進める。 特に連作畑や、線虫や土壌障害が心配な畑では、それを防ぐ。
		<p>※上記5種を同時に散布して、耕し、整地する。</p> <p>ゴボウの成否はもちろん土壌が深く、通気良く、堆肥や有機物が腐敗しないように、土作りが出来たかどうかにかかるとも。</p> <p>また、もしも堆肥が腐敗して残留していると、コガネムシ・ハリガネムシの幼虫による被害も多くなる。</p>
播種前後	播種前後の散水時 (または播種後4~5日中)	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素液を適宜薄めて灌水(散水) →発芽・発根の促進。線虫や土壌病害にも強くする。
追肥	第1回・追肥 (播種後45日~50日頃)	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安10kg (状態を見て) ※間引き(本葉3枚)後、散布して土寄せ。 ※なお、間引き後、茎葉の痛み回復・生長促進のためには、根っ酵素500倍を葉の上から散布する事。
	第2回・追肥 (播種後80日頃)	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安20kg (第1回から30日後、状態を見て) ●畑の大將<青> 20kg →カルシウムは茎葉から地下部への養分転流を促進し、ゴボウを重く充実させる。 ※この時期に土の表層と深層とのpHを測定すると、かなり酸性になっていて生育が悪い事がよくあります。酸性なら中和する事。 ※状況によって、葉色が薄く[葉中チッソ3.0%以下]、土壌にチッソ不足[EC:0.2以下]なら、硫安を追肥する。 ※葉形が丸く、葉色が濃く、チッソが効いている[EC:0.3~0.4]状態なら、カルシウムを追肥する。硫安+カルシウムの同時施用も効果的硫安とカルシウムは同時に散布できる。ただし混ぜたままで、撒かず長時間置かない事。 ※追肥は株(ウネ)の片側に溝施用し、中耕・土寄せする。
葉面散布 (適時、状況を見て)	転流・充実の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍液を葉面散布

春蒔き:1月播種、6月収穫(暖地)。晩春蒔き:4月播種、9~12月収穫。秋蒔き:9月播種、6~7月収穫。
(品種) 山田早生、柳川早生、魁、渡辺早生

カルテック農法で作られたゴボウは、煮ると柔らかく、すじっぽさが無い。